

宮城を「食」で守る！「食のみやぎ復興ネットワーク」

みやぎ生協は、「食のみやぎ復興ネットワーク」の活動に力を入れています。これは、東日本大震災によって甚大な被害を受けた県内の農業・漁業関係者や食品関連産業者が、地域復興を目指すことを目的とし、2011年7月2日に結成されました。2012年4月18日現在の参加は183団体です。

●プロジェクトを立ち上げ、具体的な活動を実施

「食のみやぎ復興ネットワーク」では、「農地を守る」「地域の特産品を守る」「生産者、地場メーカー支援」「伝統的な食生活の見直し」など、さまざまな観点からプロジェクトが立ち上がり、新しい商品の開発などが行なわれています。4月18日現在、24のプロジェクトがあり、みやぎ生協では、プロジェクトで作られた商品を店舗で供給したり、その運営などで中心的な役割を担っています。

(プロジェクト例)

- ・「なたねプロジェクト」～農地の耕作放棄地化の防止。地域の生産者支援。
- ・「秘伝豆プロジェクト」～秘伝豆の作付け拡大で休耕圃場の復活。
- ・「りんごワイン復活プロジェクト」～被災した県内唯一のワイナリー「桔梗長兵衛商店」が再建される日まで、山形のワイナリーにて“りんごワイン紅玉”を製造。
- ・「地場菓子応援プロジェクト」～宮城県産の原料を使った菓子を開発することで、県内の生産者、東北の加工業者の復旧・復興を応援。



仙台白菜プロジェクトでは高校生も参加。

●プロジェクトにより、新しい商品が次々と登場！

◇ノルウェー産さば吟醸味噌漬け（半身2枚入り・398円）

ネットワークに参加する永田醸造株式会社、株式会社仙台水産、そして、みやぎ生協で立ち上げた「地元で作った漬魚プロジェクト」が開発した商品です。3月22日からみやぎ生協全店で取り扱いを開始し、4日間で3,500パックの利用がありました。



◇そのまま煎り豆（80g・218円）

「県産大豆を使用した菓子づくりプロジェクト」開発商品です。県産大豆を100%使用しました。製造はネットワークに参加する社会福祉法人はらから福祉会です。4月12日より、いわて生協、生協共立社、みやぎ生協、コープふくしま全店で発売中です。



●支援を全国に呼び掛けています

「食のみやぎ復興ネットワーク」の取り組みの一環として、みやぎ生協では、被害が大きかった「宮城県漁協志津川支所」「JA いしのまき」の生産者が復興へ向けたスピードを上げることができるよう、生産手段（機械・資材）を贈る募金活動を全国の生協へ呼び掛けています。

宮城県漁協志津川支所は、地震による津波で船や養殖施設はもちろん、陸上の処理施設のすべても失い、震災前には1,000隻あった漁船の9割が消失しました。復興には漁船や機械・機材が必要です。その為に必要な費用の約1/3は自己負担です。

JA いしのまきは、依然として地下水が塩分を含んでいるために、キュウリやイチゴの栽培ができない状況が続いています。

こうした状況から抜け出すために、全国からの支援が求められています。（具体的な支援募集内容については、8面参照）

「食のみやぎ復興ネットワーク」は地域の協力を軸としながら、「食のみやぎ」を守り、育てる活動を末永く続けていきます。



津波による被害で、土の表面が白くなったキュウリ農家の畑。